

2 子育てや子どもの教育について

(1) 理想とする子どもの数と、理想の子どもの数より少ない理由

【分析のまとめ】

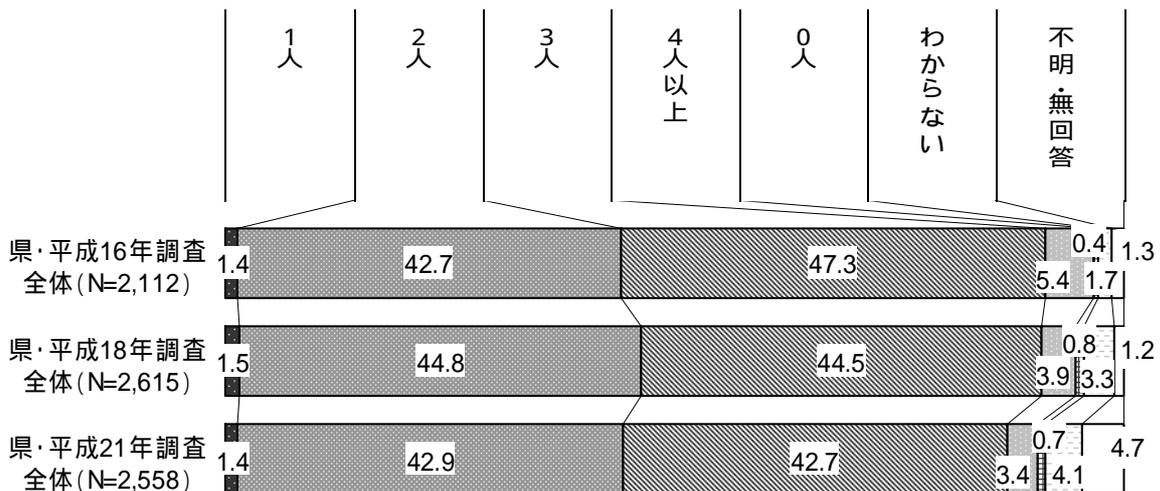
県調査では理想とする子どもの数は、「3人」から「2人」となっており、理想よりも実際の子どもの数が少ない理由として主に経済的負担が増えることがあげられます。

理想とする子どもの数について県調査の時系列変化をみると、平成16年は「3人」と答えた人の割合が47.3%で最も高くなっていましたが、平成18年、平成21年では「2人」がわずかに「3人」を上回っています。

実際の子どもの数が理想よりも少ない理由について時系列変化をみると、各年ともに「経済的負担が増えるから」が最も高く、平成16年、21年では4割を超えており、平成18年では58.6%と約6割となっています。その他に「仕事と子育ての両立が困難だから」、「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」が各年ともに2割前後で高くなっています。

問3. あなたの理想とする子どもの数は何人ですか。次の中から1つ選んで 印をつけてください。

問3 理想の子どもの数 【全体】



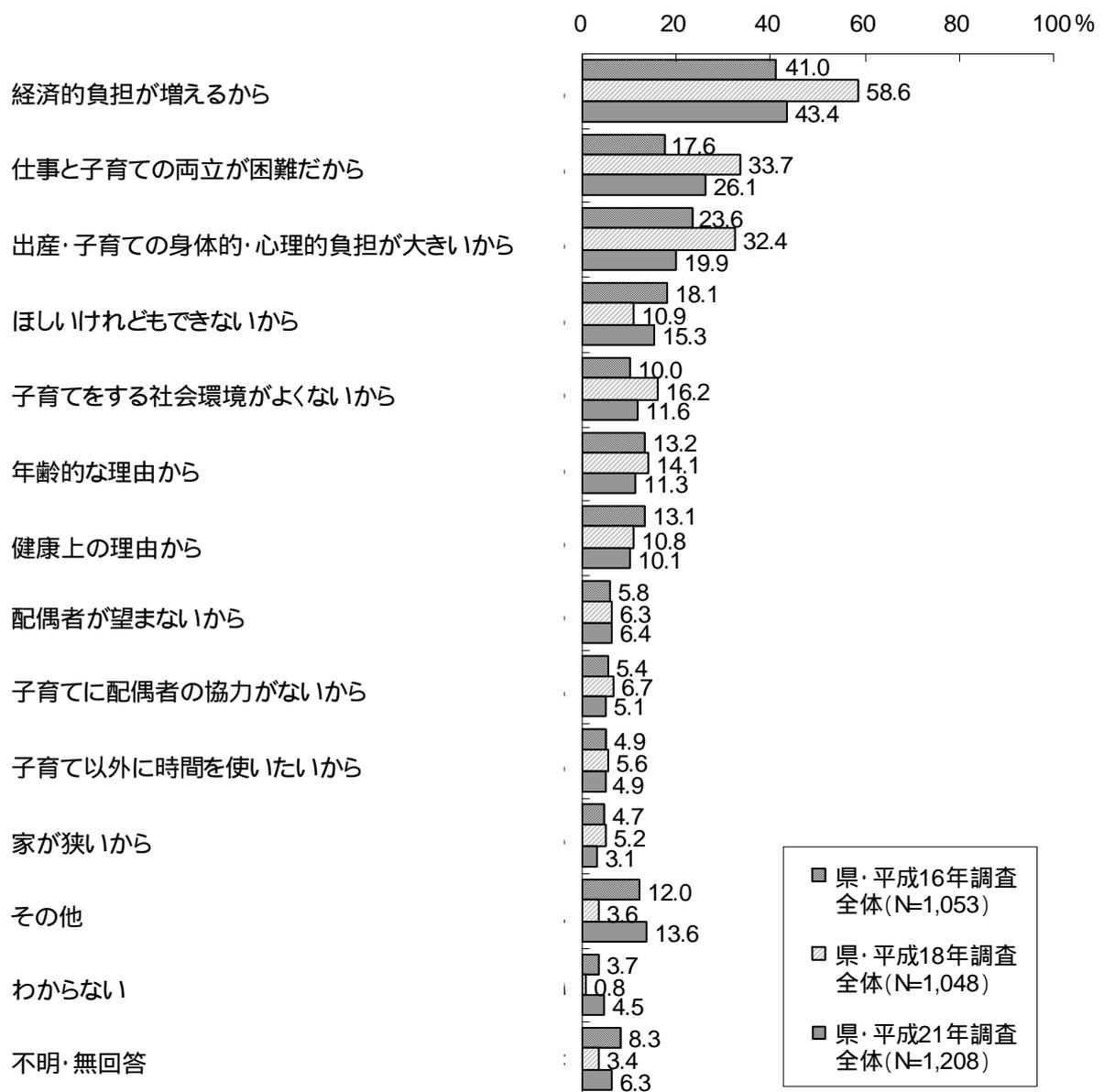
単位：%

県の平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、平成16年では「3人」と答えた人の割合が最も高くなっていますが、平成18年、平成21年では「2人」と答えた人の割合が最も高くなっています。

「3人」、「4人以上」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。

問4. 実際の子どもの数が、理想とする子どもの数より少ない理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んで印をつけてください。

問4 理想の子どもの数より少ない理由 【全体】

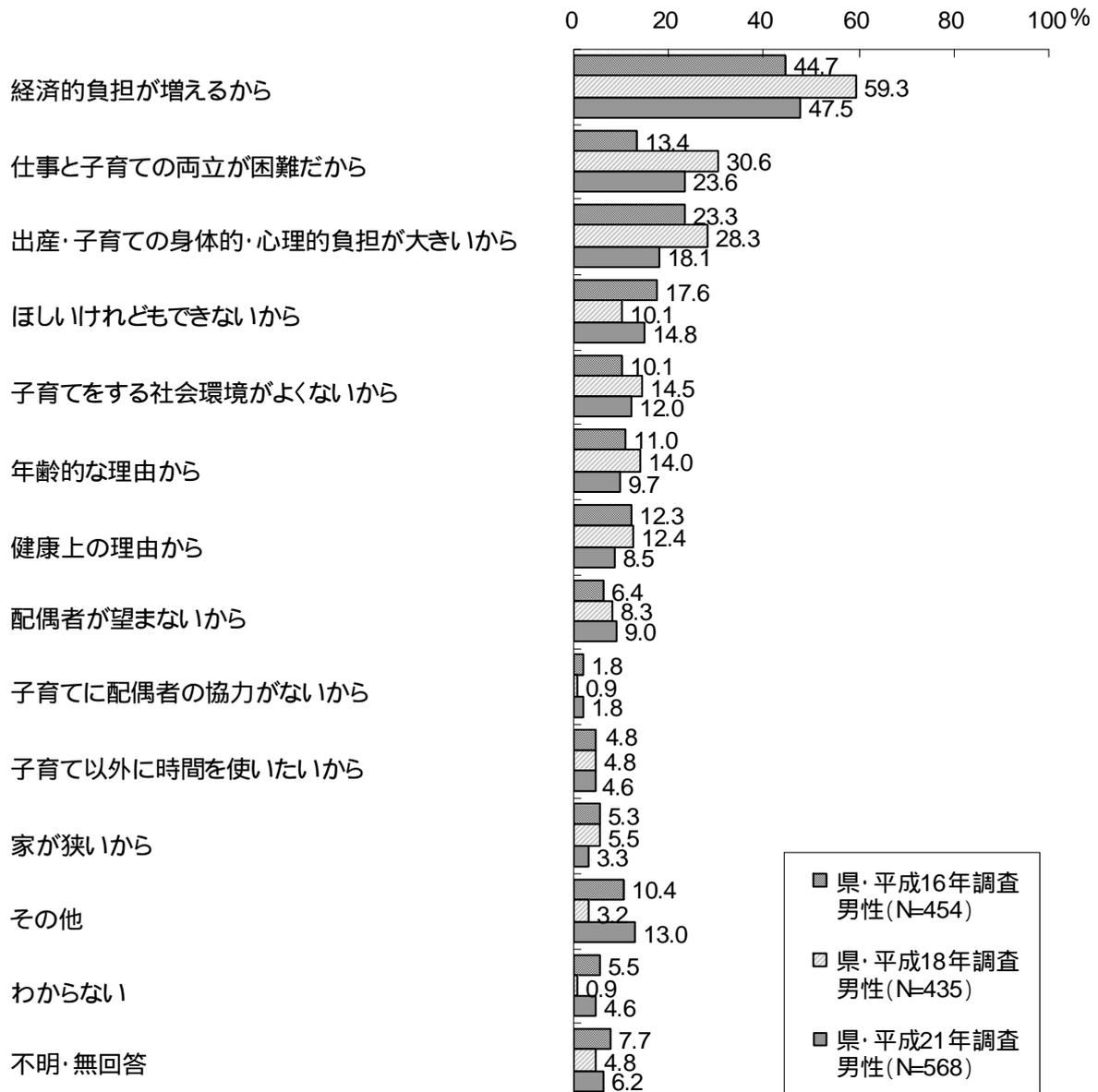


県の平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、「経済的負担が増えるから」、「仕事と子育ての両立が困難だから」、「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」、「子育てをする社会環境がよくないから」と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が減少しています。

「ほしいけれどもできないから」と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が増加しています。

「健康上の理由から」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて減少しています。

問4 理想の子ども数より少ない理由 【男性】

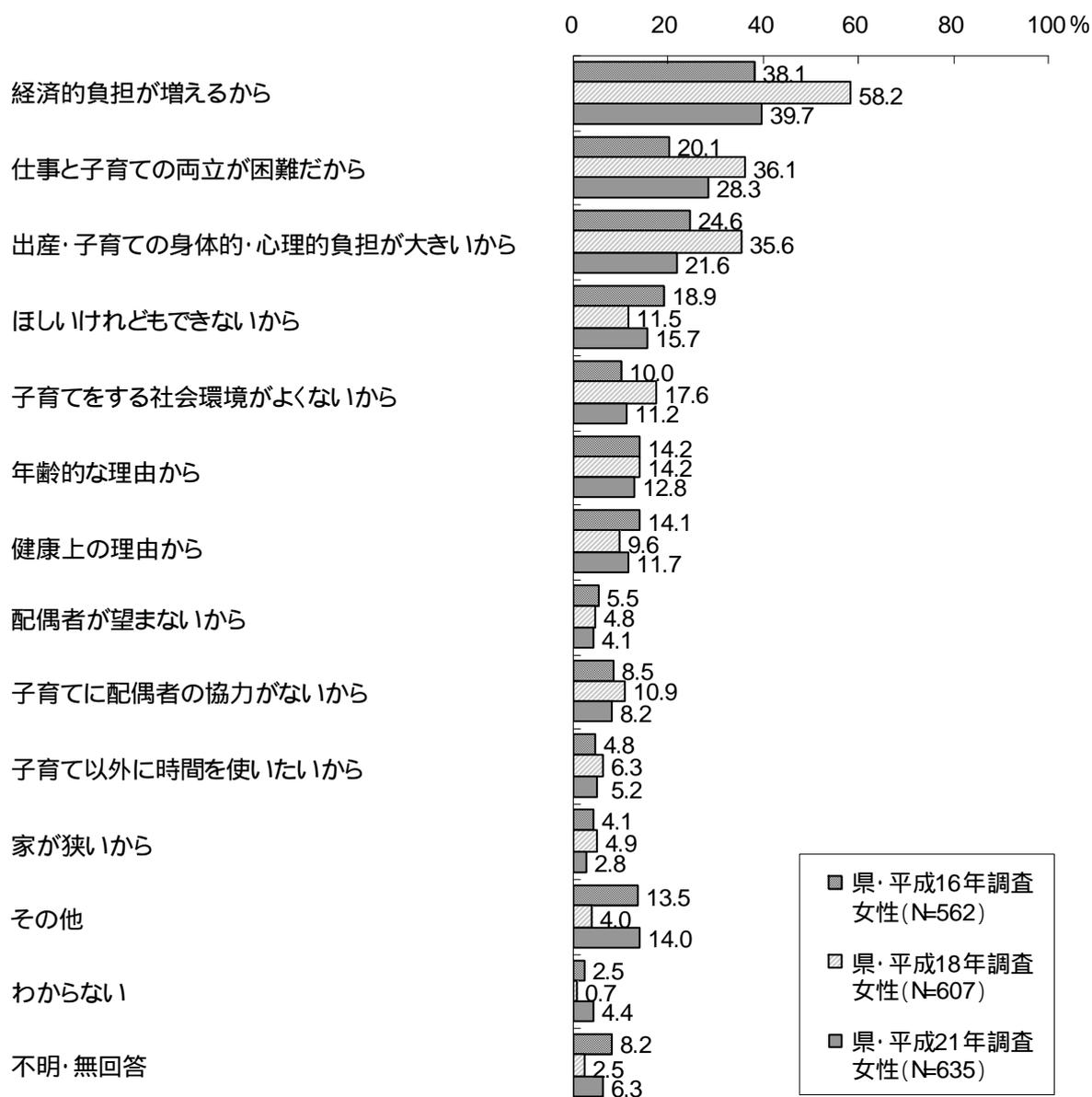


県の平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性を比較すると、「経済的負担が増えるから」、「仕事と子育ての両立が困難だから」、「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」、「子育てをする社会環境がよくないから」、「年齢的な理由から」、「健康上の理由から」、「家が狭いから」と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が減少しています。

「ほしいけれどもできないから」と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が増加しています。

「配偶者が望まないから」と答えた人の割合は、平成16年から平成21年にかけて増加しています。

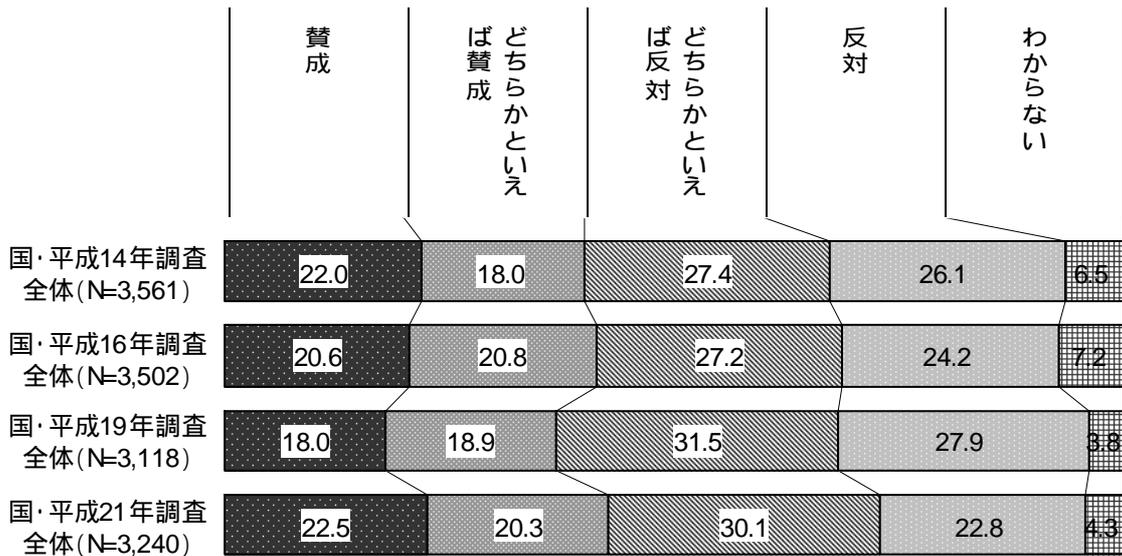
問4 理想の子ども数より少ない理由 【女性】



県の平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性を比較すると、「経済的負担が増えるから」、「仕事と子育ての両立が困難だから」、「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」、「子育てをする社会環境がよくないから」、「年齢的な理由から」、「配偶者が望まないから」、「子育てに配偶者の協力がいないから」、「子育て以外に時間を使いたいから」、「家が狭いから」と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が減少しています。

【参考】 男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）より

問 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない 【全体】



単位：%

国の平成14年調査、平成16年調査、平成19年調査、平成21年調査を比較すると、『賛成』と答えた人の割合は、平成14年から平成21年にかけて増減を繰り返し、平成21年には増加しています。

また、『賛成』、『反対』の割合については、『反対』の方が『賛成』を上回っています。

『賛成』は、本来の選択肢の「賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合を合計したものです。『反対』は、「どちらかといえば反対」と「反対」の割合を合計したものです。

(2) 男の子と女の子のしつけや教育について

【分析のまとめ】

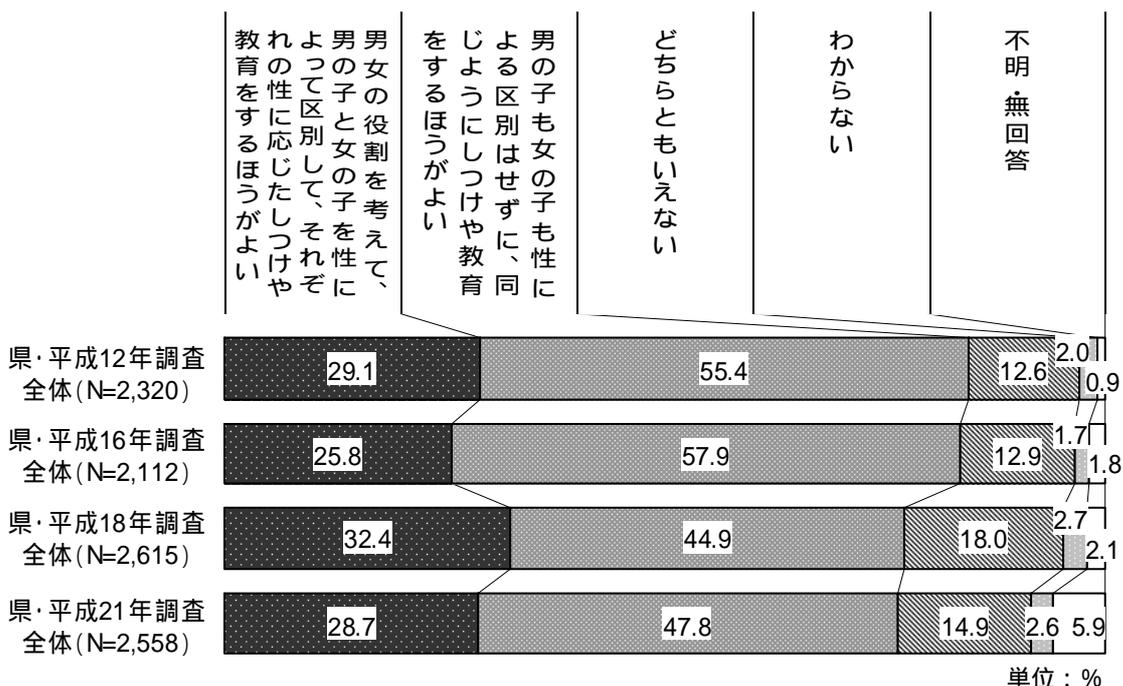
県調査では性別にとらわれず同じようにしつけや教育をするのがよいという考え方が多くなっているものの、性別によって役割を考えるとという考え方も3割前後みられます。

県調査の時系列変化をみると、各年ともに「男の子も女の子も性による区別はせずに、同じようにしつけや教育をするほうがよい」が最も高く5割前後を占めています。男女別にみると、各年ともに女性が男性を上回っています。

「男女の役割を考慮して、男の子と女の子を性によって区別して、それぞれの性に合ったしつけや教育をするほうがよい」と答えた人の割合も3割前後となっており、男女別にみると、各年ともに男性が女性を10ポイント以上、上回っています。

問5. あなたは男の子と女の子のしつけや教育についてどう思いますか。次の中から1つ選んで 印をつけてください。

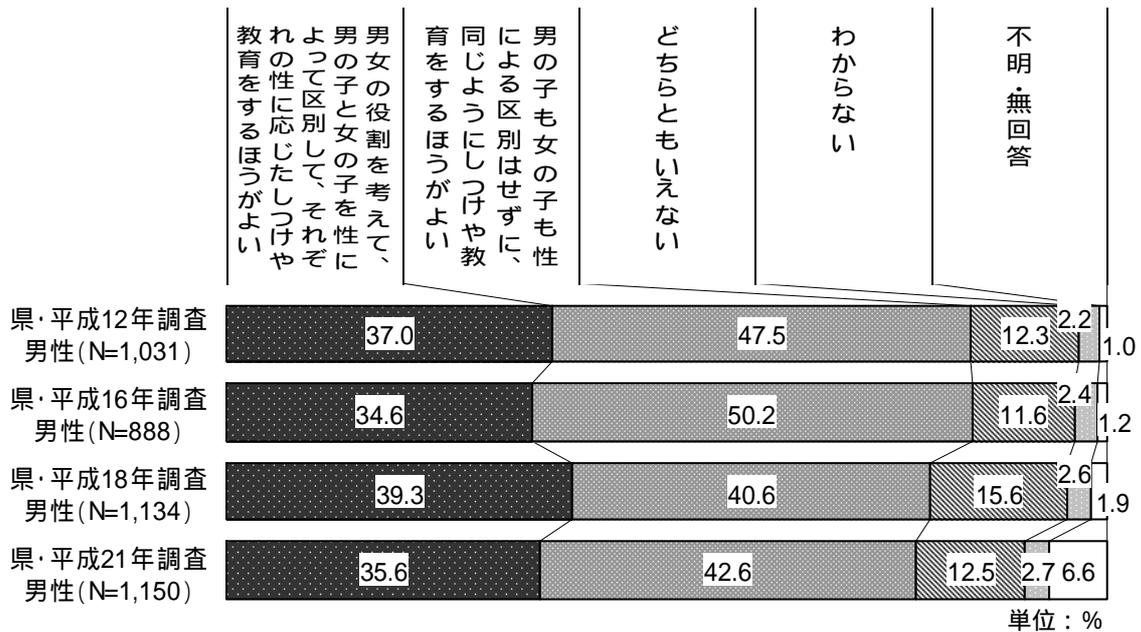
問5 男の子と女の子のしつけや教育について 【全体】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、「男の子も女の子も性による区別はせずに、同じようにしつけや教育をするほうがよい」と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が増加していますが、平成12年、平成16年と比べると減少しています。

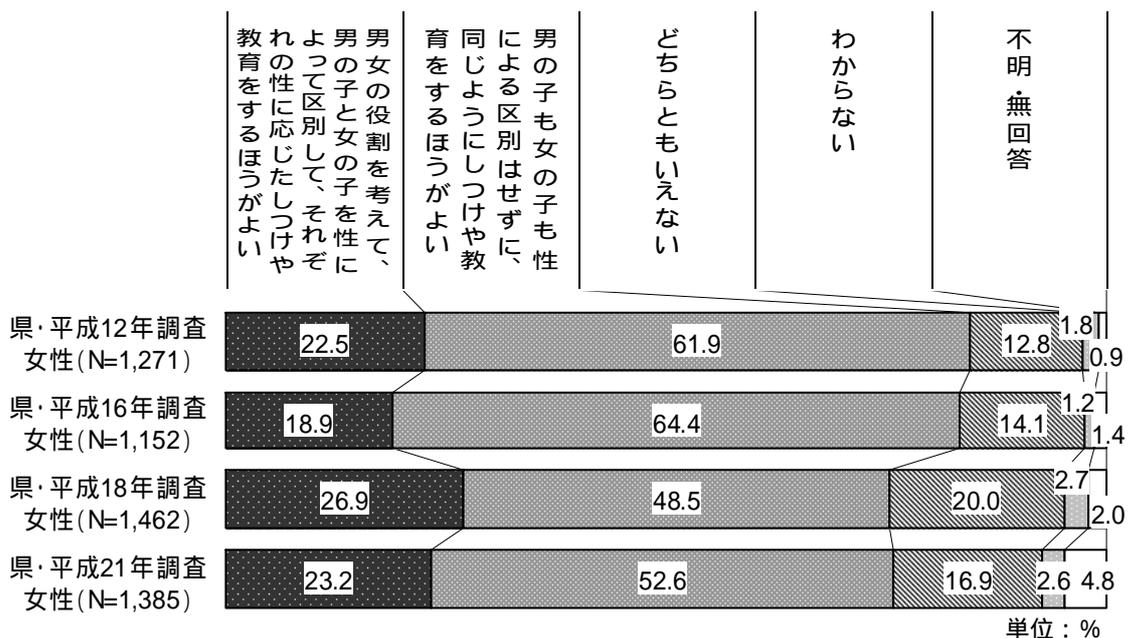
また、「男女の役割を考慮して、男の子と女の子を性によって区別して、それぞれの性に合ったしつけや教育をするほうがよい」と答えた人の割合は、平成18年に比べ平成21年の方が減少しています。

問5 男の子と女の子のしつけや教育について 【男性】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の男性を比較すると、各年ともに「男の子も女の子も性による区別はせずに、同じようにしつけや教育をするほうがよい」と答えた人の割合が最も高くなっています。

問5 男の子と女の子のしつけや教育について 【女性】



県の平成12年調査、平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査の女性を比較すると、各年ともに「男の子も女の子も性による区別はせずに、同じようにしつけや教育をするほうがよい」と答えた人の割合が最も高くなっています。

(3) 子育てに関する考え方について

【分析のまとめ】

県調査では家事については女の子に求められる傾向があり、経済的な自立については男の子に求められる傾向にあります。

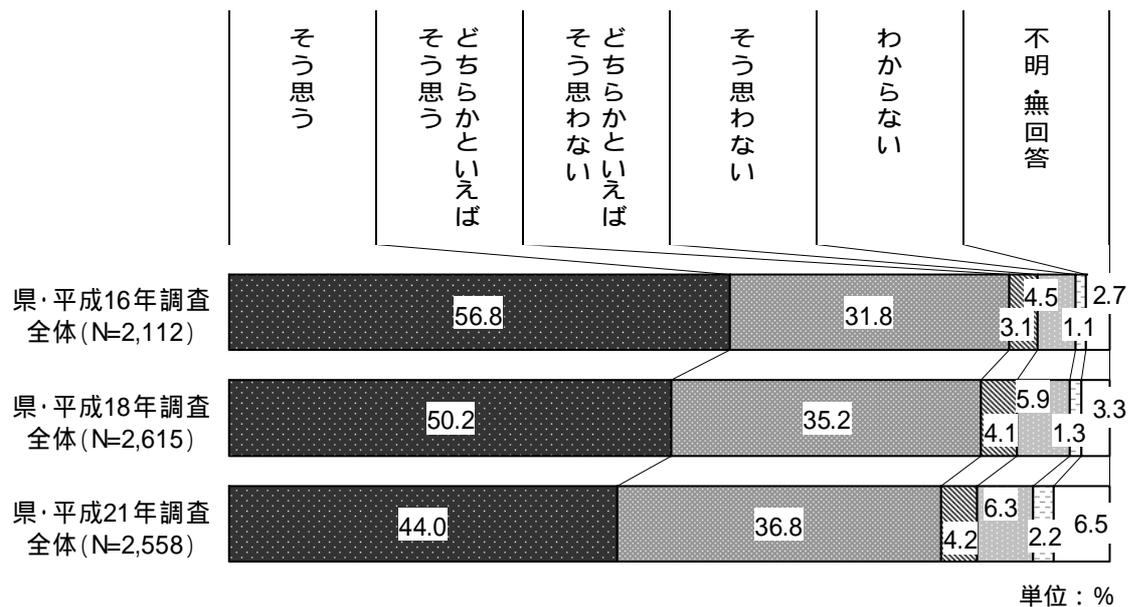
県調査では子育てに関する考え方について、「子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい」、「子どもの世話の大部分は、男親にもできる」、「男の子は家事ができるように育てるのがよい」、「男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」、「女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」については、平成16年から平成21年にかけて『そう思う』と答えた人の割合が減少しています。「必要であれば、子育て支援サービスを受けて子育てをしてもよい」については『そう思う』と答えた人の割合が平成16年から平成21年にかけて増加しており、平成21年では55.5%と半数を超えています。

『そう思う』は、本来の選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を合計したものです。以降のページも同様。

問6. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。A～Gのそれぞれについて1つずつ選んで印をつけてください。

問6 子育てに対する考え方について

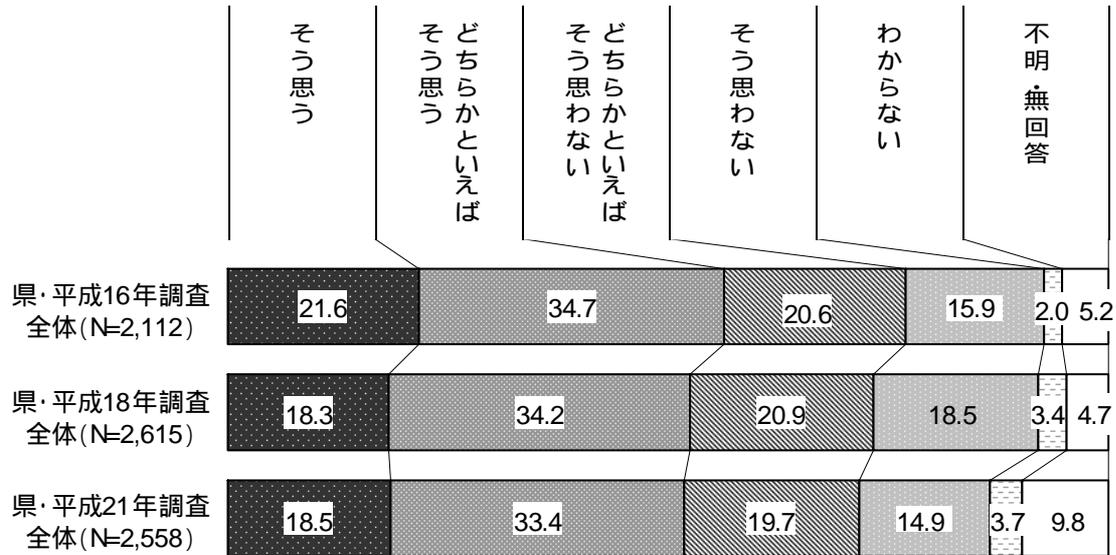
《A 子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい》 【全体】



県の平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『そう思う』と答えた人の割合は平成16年から平成21年にかけて減少しています。

問6 子育てに対する考え方について

《B 子どもの世話の大部分は、男親にもできる》 【全体】

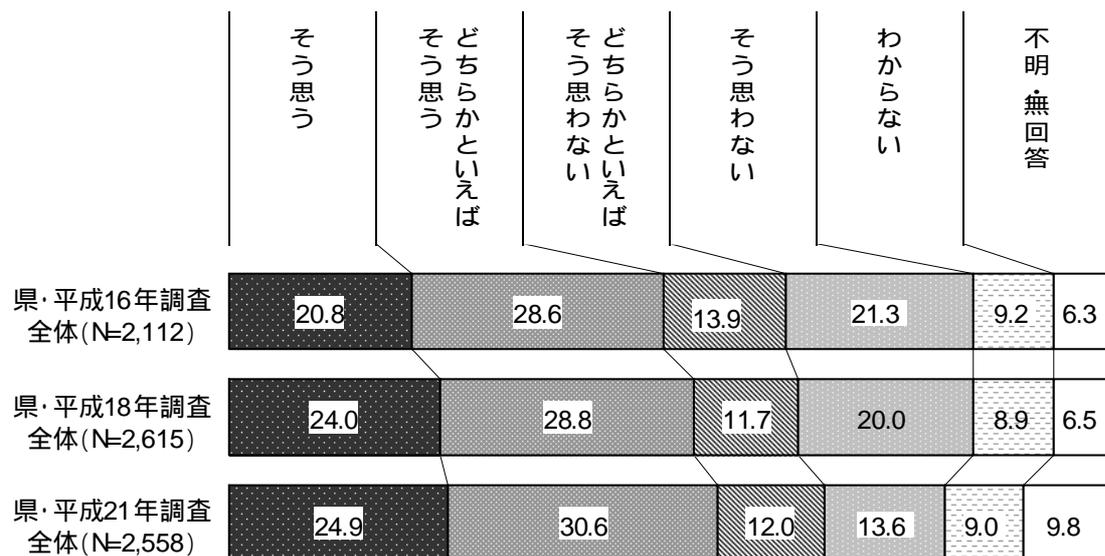


単位：%

県の平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『そう思う』と答えた人の割合は平成16年から平成21年にかけて減少しています。

問6 子育てに対する考え方について

《C 必要であれば、子育て支援サービスを受けて子育てをしてもよい》 【全体】

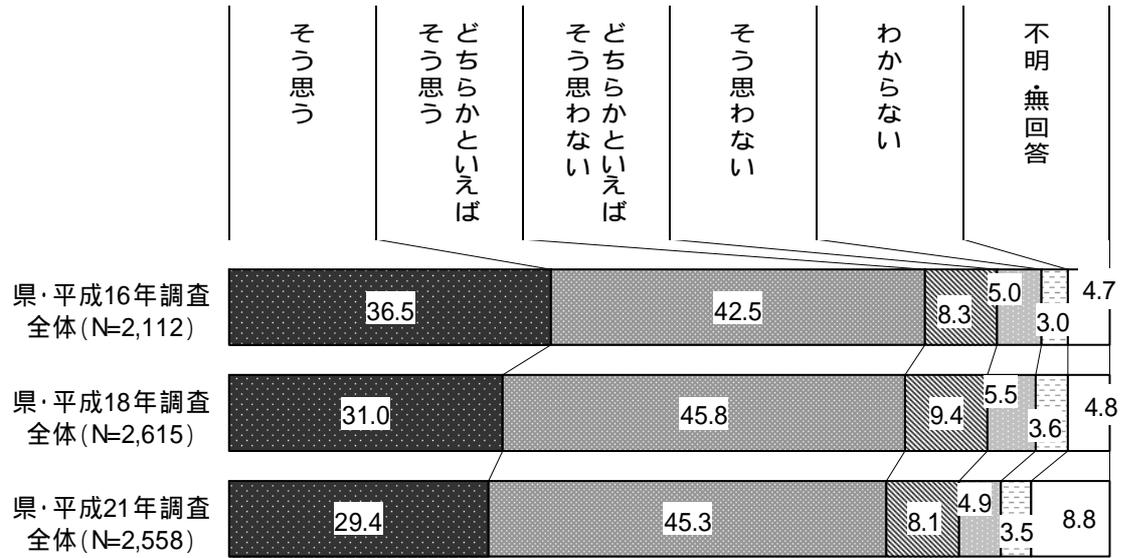


単位：%

県の平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『そう思う』と答えた人の割合は平成16年から平成21年にかけて増加しています。

問6 子育てに対する考え方について

《D 男の子は家事ができるように育てるのがよい》 【全体】

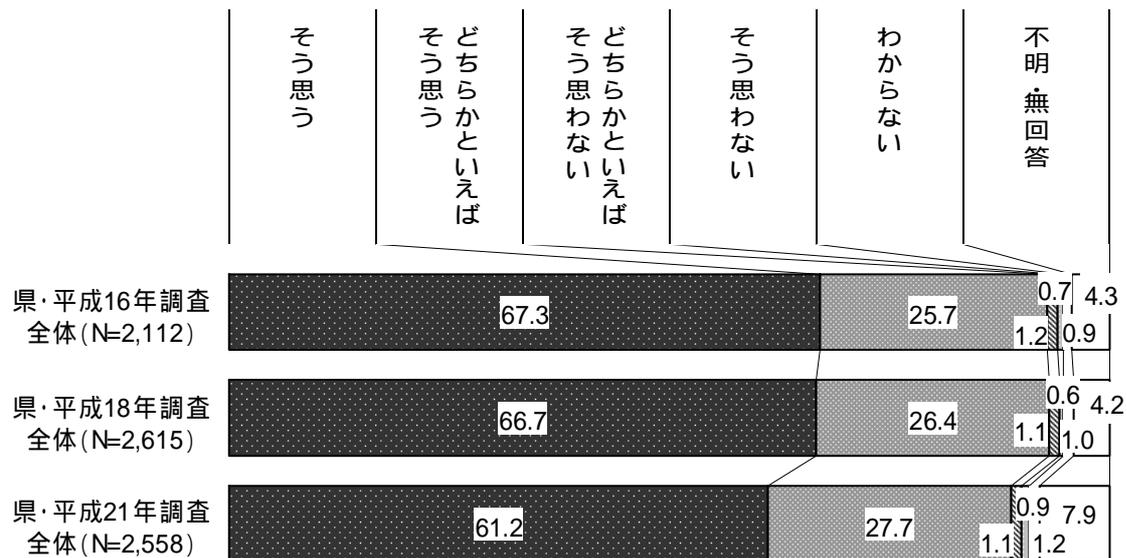


単位：%

県の平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『そう思う』と答えた人の割合は平成16年から平成21年にかけて減少しています。

問6 子育てに対する考え方について

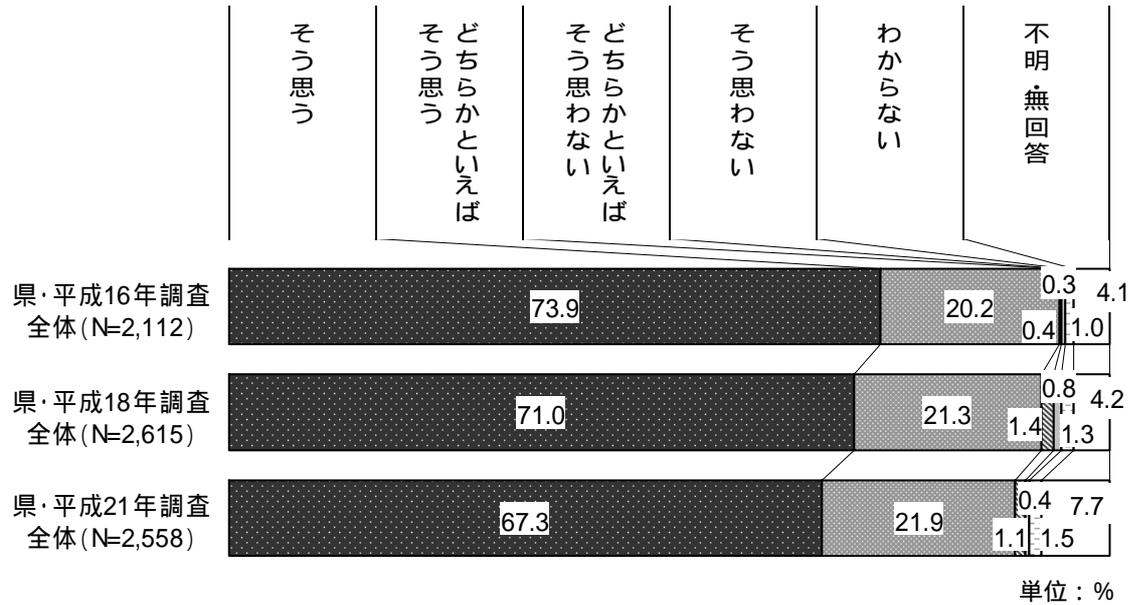
《E 女の子は家事ができるように育てるのがよい》 【全体】



単位：%

問6 子育てに対する考え方について

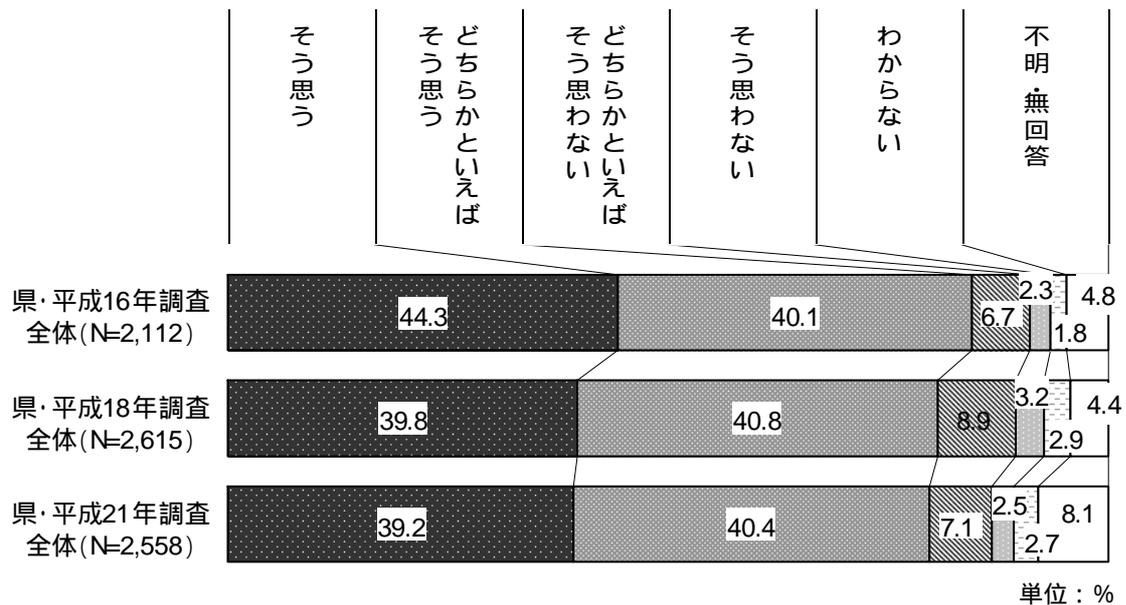
《F 男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい》 【全体】



県の平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『そう思う』と答えた人の割合は平成16年から平成21年にかけて減少していますが、各年とも9割前後となっています。

問6 子育てに対する考え方について

《G 女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい》 【全体】



県の平成16年調査、平成18年調査、平成21年調査を比較すると、『そう思う』と答えた人の割合は平成16年から平成21年にかけて減少しています。